

# 2019 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 行政枠アンケート 集計結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分への減少に寄与する活動です。

2019 年度は 2,510 名の個人(一般枠)、19 団体、118 の行政と協働し、約 3 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

### 1. アンケート概要

2019 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(行政枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※行政枠の対象は、行政(地方公共団体)およびそれに準ずる団体です。公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象となります。

- 2019 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請数 118 件
- アンケート有効回答数 111 件

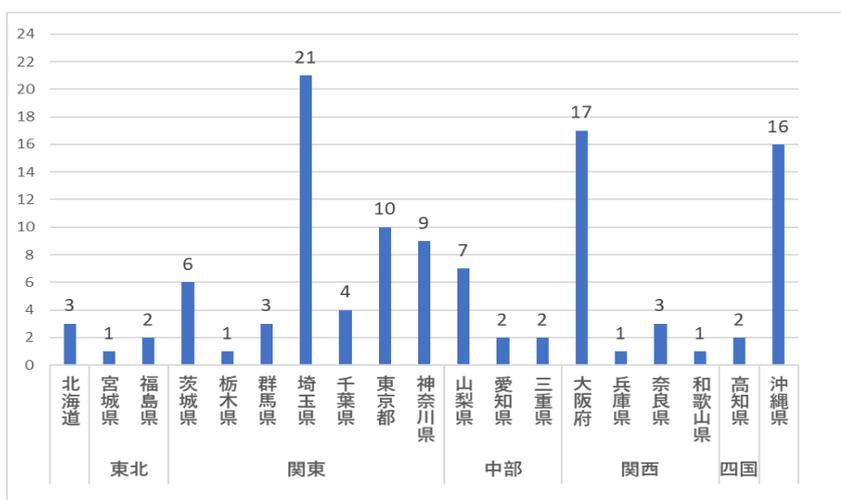
### 2. 団体について

団体の種類	票数	%
地方公共団体(市町村)	92	83%
地方公共団体(都道府県)	6	5%
公園等の指定管理者	12	11%
その他	1	1%

### 3. 都道府県別団体数

昨年度に続いて、埼玉県が 21 件で最多となり、次いで大阪府の 17 件、沖縄県の 16 件となりました。

地方別では、関東が 54 件で全体の 49%を占め、関西の 22 件と合わせると、約 7 割が大都市圏の行政による活動です。



#### 4. チケットの使用について

申請者からのチケットの分配方法（複数回答）	票数	%
ボランティアに分配した	92	83%
申請団体が自ら猫を捕獲して使用した	28	25%

チケットの使用方法（複数回答）	票数	%
実際の TNR 作業はボランティアがすべて行った	79	71%
実際の TNR 作業は申請者自身がすべて行った	10	9%
申請者とボランティアが協働して TNR 作業を行った	36	32%

#### 5. 猫の引き取り数

TNR 後の行政による猫の引き取り数について（回答数 71）	票数	%
前年と比べて減った	31	44%
前年と比べて変わらない	37	52%
前年と比べて増えた	3	4%

#### 6. チケット申請回数

2019 年度にチケットを申請した回数	票数	%
1 回	13	12%
2 回	20	18%
3 回	27	24%
4 回	29	26%
5 回	16	14%
6 回	2	2%
10 回	2	2%
11 回	2	2%

## 7. 配布チケット数

2019 年度に配布を受けたチケットの数	票数	%
1～10	12	11%
11～30	16	14%
31～60	16	14%
61～100	18	16%
101～200	34	31%
201～500	12	11%
501 以上	3	3%

44%の団体が 101 枚以上のチケットの配布を受けました。

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	38	34.2%
80～99%	44	39.6%
60～79%	15	13.5%
40～59%	9	8.1%
20～39%	4	3.6%
1～19%	0	0.0%
使わなかった	1	0.9%

74%の団体が 80%以上の使用率でした。

## 8. 対象地域

さくらねこ TNR をした猫と地域について	票数	%
行政に地域猫活動地域として認められ管理されている地域	17	15.3%
行政が認めた地域猫活動地域ではないが、不妊・去勢手術の実施が必要な地域	78	70.3%
管理している施設の敷地(公園、港湾、学校など)	16	14.4%

行政に公式に認められた地域猫活動地域は約 15%でした。

TNR を行った場所(複数回答)	票数	%
住宅地	90	81%
公園	49	44%
港湾	13	12%
学校	2	2%
公共施設	6	5%
その他	20	18%

## 9. 新たな捨て猫の数

TNR 後の新たな捨て猫の数について	票数	%
捨て猫が減った	16	14.4%
捨て猫の数は変わらない	17	15.3%
捨て猫が増えた	1	0.9%
わからない	77	69.4%

## 10. さくらねこ TNR を実施した猫の変化

TNR を実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った	90	81%
猫の性格が穏やかになった	31	28%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	32	29%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	31	28%
猫の健康状態が良くなった	23	21%
その他	6	5%

その他は、「交通事故に遭う猫が減った」「変化があったか分からない」「手術実施から時間がたつておらず経過観察中」という回答でした。

## 11. 住民や猫ボランティアとの関係の変化

住民や猫ボランティアと申請者(行政側)の関係は	票数	%
良くなった	80	72%
変わらない	31	28%
悪くなった	0	0%

「悪くなった」と回答した団体はありませんでした。また「変わらない」という回答のなかには、「もともと関係は良好である」といったものが多く含まれていました。

## 12. 地域住民との関わりの変化

TNRを実施した地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	56	50%
苦情が減った	61	55%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	42	38%
協力してくれるひが増えた(できた)	48	43%
地域の人に感謝された	47	42%
猫を可愛がってくれる人が増えた	12	11%
変わらない	11	10%

## 13. 今後の課題

今後の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	61	55%
資金不足	46	41%
捕獲のやり方	24	22%
活動団体との調整	36	32%
地域住民との調整	69	62%
その他	8	7%
特になし	10	9%

## 14. 飼い猫の捕獲について

2019年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	8	7%
いいえ	103	93%

2019年度の本事業で飼い猫を間違って手術して問題になった	票数	%
はい	2	2%
いいえ	109	98%

アンケート回答者 111 団体のうち 8 団体(7%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答。うち 2 団体(2%)で手術を行った事例があり、そのうち屋外飼養であった 1 頭については、不妊手術の有効性を丁寧に説明して理解を求めています。もう 1 頭については、「飼う予定だった猫を手術された」との匿名の申し出で実施場所を教えてもらえず、チケットを使用した手術だと特定できなかったものの、今後は飼い猫であるかどうかの確認を再度徹底するとの報告がありました。

## 15. 所感

今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して	票数	%
大変良かった	95	86%
良かった	16	14%
普通	0	0%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%

約 85%の団体が「大変良かった」と回答しており、「普通」「悪かった」「大変悪かった」と回答した団体はありませんでした。

## 16. 来年度に向けて

来年度も行政枠無料不妊手術事業を	票数	%
活用したい	107	96%
活用したくない	0	0%
検討中	4	4%

「検討中」と回答した団体からは、行政の人事異動などによる方針転換を心配する声や、地域住民の理解と容認を得るための整理が必要だという声が寄せられました。

## 17. ピックアップコメント

### 【地域住民からの声や、地域住民との関わりにおいて気づいた変化】

- 猫に関する苦情が寄せられた際、TNR活動への取り組みについて説明して理解を得られたことがあった。しかしながら、マナーの悪い餌やり行為に関する苦情は減っていない。今後は TNR 活動と餌やりさんへの意識付け、両方からのアプローチが必要だと感じている。
- TNR の実施回数を重ねるたびに、野良猫の繁殖に対して課題意識を持つ住民の方からの問い合わせが増えてきている。その多くは協力的なもので、TNR 活動に対して何らかの支援や協力を申し出ていただくことが増え、これをきっかけに、地域猫活動の拡大につなげたいと考えている。
- ボランティア団体が行う野良猫の捕獲活動から地域住民が参加した事例では、野良猫に関する餌やトイレに関する経費を自治会が支援してくれるようになったほか、捕獲・手術を行った団体とは異なるボランティア団体が、当該自治会内の地域猫活動に協力してくれるようになったという報告もあった。
- 公園管理者としての意識に変化があった。以前は一律に猫の餌やりを禁止していたが、TNR 活動によって不妊手術を受けた猫については、一部の餌やりを黙認し、片付け等利用者にも配慮した方向に変わった。

### 【どうぶつ基金にご寄付をいただいた皆様へ】

- 本市でも地域猫活動支援事業として市内の地域猫の不妊手術を行っていますが、予算や人員の都合があり、不妊手術の依頼を受けても対応できないことがありました。その際にさくらねこ無料不妊手術チケットを使わせていただいたことで、市内の地域猫活動を円滑に運営することができ、地域猫活動団体の皆様からもお礼の言葉をいただいております。
- 今年度(令和元年)から、行政チケットを活用して TNR をスタートしました。1 年目にもかかわらず、寄付者の皆様をはじめ、多くの方のご協力のおかげで、140 匹の不妊という成果を上げることができました。ありがとうございました。今後も、猫と人が幸せに暮らせる地域社会をめざして、引き続き活動を進めます。
- 担当者として TNR に携わらせていただいて感じたことは、TNR 活動の効果は直接的に猫が増えなくなるだけでなく、その地域の住民さんの意識が変わる、またそれに伴って猫の顔つきも変わるということでした。餌やりさんが給餌の仕方やフンの処理に気を配るようになり、これまで猫を毛嫌いしていた人が猫に対して寛容になると、以前よりのびのびと暮らせるようになった猫が時折愛嬌のある姿を見せるようになり、表情も以前の陰しいものからいくらか柔らかくなっているように感じました。
- 皆様のご寄付のおかげで、南の島に新たに 500 匹以上のサクラ猫が誕生しました！  
外で暮らす猫にとって、楽園の島となるように、今後とも一歩ずつ、進んでいきたいと思っております。旅行にいらした際に、サクラ猫を見かけたら「この島の猫たちは私が育てた」と自慢してください。皆様にモフモフの加護があらんことを！

## 18. 総括

- 行政枠のチケット発行団体数は、2017 年度 48 団体→2018 年度 81 団体→2019 年度 118 団体と着実に増えています。これまで、さまざまな課題を解決しながら全国の行政と協働してきたことで、多くの成功事例が積みあがってきました。これらの成功事例が前例となって、TNR 活動に慎重な自治体が TNR 活動に踏み出すことができ、今後さらに行政枠の協働団体は順調に増加すると予想されます。
- アンケートに回答した 111 団体すべてが、今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して「大変良かった」または「良かった」と回答しています。自治体の予算や人員に制約があるなか、ボランティアに経済的負担を負わせることなく、より多くの TNR を実施できたという声が最も多く寄せられました。さらに、「TNR 活動を通して地域のコミュニティが活性化した」「ボランティア団体との良好な関係づくりに役立っている」「地域猫活動に取り組み始める地域住民が増えた」「今後の活動において必要なノウハウや、地域住民・ボランティア団体など関係者とのネットワークができた」といった報告から、野良猫の数の抑制や苦情の減少といった直接的な効果だけではなく、地域全体に良い影響をもたらしていることが確認できます。また、「市民から寄せられる相談に対して、みんなが納得できる提案ができた」「予算も捕獲のノウハウもなく困っていたが、この事業を活用することでやっと住民の要望に応えることができた」「ボランティアと協力して事業を行う機会を持つことができた」「行政も野良猫の問題に取り組んでいることを理解してもらえた」など、各行政の担当者も TNR 活動に手応えを感じている様子を読み取ることができました。
- 行政に公式に認められた地域猫活動地域での事業は、一般枠及び団体枠のアンケート結果で得られた割合よりは多いものの、回答 111 件中の 17 件で全体の 15.3%でした。多くの地方自治体で地域猫活動を推進していますが、予算や人員の確保が難しい、餌やりや清掃などに関する協議に時間がかかる、協議に時間をかけている間に猫の数が増えて地域住民の理解や協力が得にくくなる、などの理由から普及が進んでいないのが実状です。今回のアンケートに寄せられた回答からも、従来型の地域猫活動普及の難しさを推し量ることができます。そして、地域猫活動地域の認定を行う存在である行政自身が「さくらねこ無料不妊手術事業」を活用し、その多くが成功を収めていることから、どうぶつ基金が取り組む TNR 先行型地域猫活動が課題の解決に有効であることが分かります。
- 行政枠に限らず、一般枠や団体枠のアンケートにおいても、どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業が行政の補助金などと比べて実施が容易である点がメリットとして挙げられています。また、「行政の補助金制度に比べて、申請等の手続きがスムーズ」「市の補助金制度にはさまざまな制約があり、相談の多くに対応できない」「行政の補助金だけでは限界があったが、地域猫活動対象エリアはもちろん、対象外のエリアについても不妊手術を行うことができた」という回答から、行政の枠組みに対する優位性も確認できます。環境省が、合意形成に時間を要する従来型の地域猫制度にこだわり続ければ、問題解決は遠のくでしょう。環境省には、柔軟な姿勢で TNR 先行型地域猫活動の推進と普及啓発に協力すること、すでにさくらねこ TNR 活動を展開している行政、自治会や NPO 法人等との速やかな連携を求めます。